

2025 九州大学(前期)数学(理系)概評

出題分析			
試験時間 150 分	配点 250 点	大問数 5 題	
分量 (昨年比較) [減少]	同程度 増加]	難易度変化 (昨年比較) [易化] 同程度 難化]	
<p>【概評】例年と比べ、数学Ⅲからの出題は少なめとなっている。やや易から標準的な問題が多かったため、どの大問も比較的取り組みやすかったであろう。計算量についても少なかったが、積分計算を行う問題が出題されている。全体として考え方や記述力を測る問題であった。今回も、文理共通問題が 2 問出題されている。</p>			
設問別講評			
問題	出題分野・テーマ	設問内容・解答のポイント	難易度
1	空間ベクトル	(1) 平面に垂直な直線と xy 平面の交点を求める問題。平面に垂直なベクトルを求めることがポイント。 (2) 2 次関数の最小値を求める問題で易しい。	やや易
2	微積分法	置換積分を利用する定積分の計算。部分分数展開の知識が必要である。	やや易
3	整数 (式をみたす整数)	(1) 自然数の平方を 8 で割った余りに関する証明問題。 n を 8 で割った余りで場合分けをすればよい。 (2) 整数解を求める問題。 n^2 が奇数であることに気づけば、素因数分解の公式が利用できる。	易
4	三角比	余弦定理、面積の公式、角の二等分線の公式を利用する。(3) は三角形 ABC の面積を利用する。	易
5	確率	(1) は c が 3 重解の場合を見落とさないことがポイント。(2) は最初に、2 次方程式の自然数解を決定すると考え易くなる。	やや易
合格のための学習法			
<p>昨年と比べ、基本的な問題が多く出題され、数学ⅢC は分量が大きく減ったの出題となった。しかし、例年満遍なく出題されており、数学ⅢC が多くを占める年もあるため、怠ることなく学習していく必要があるだろう。計算量が多い問題も出題される年もあり、今年は積分計算も出題されているため、日頃問題を解いていく中で計算を最後まで行い、計算ミスをしないうような力をつけてほしい。証明問題についても例年、複数問の出題がある。考えたことを解答用紙に反映する練習をしておくとういだろう。</p>			